

但馬(北但)地方蝶類目録

安達 留 二 郎*

はじめに

現在、但馬の蝶は108種が記録されている(高橋、1979)。本州産の蝶はだいたい分布していることになるが、ヒョウモンモドキやクロコノマキョウなど生息の有無が現在では疑わしいものも何種類が含まれており、再検討の必要がある。一方、近年になって各地での調査が毎年行なわれ、ウスイロヒョウモンモドキ、オナガシジミ、キマダラルリツバメなどの多くの新産地が発見されてきている。これからも新たな産地が見つかる可能性は十分にあると考えられる。

北但馬の環境は変化に富んでおり、調査をしていても面白い場面が多い。そういうことから環境別に解説をし、またわかりやすいように一覽表(環境別蝶類分布表)を末尾に掲げておいたので、何かの参考にしていただければ幸いである。ただし、これはあくまで目安にすぎない。これからも多くの新知見が発表されることであらう。

1. 海 岸

但馬地方の海岸は山陰海岸国立公園に指定されていて、四季折々に美しい景色を觀賞でき、夕陽の沈む海はまた格別である。海岸線には一見蝶はいないようにみえるが、これいかに、意外に多い。種類はわずかなが、個体数が多いのである。特に、海岸沿いに立ちならぶ山々の頂には数十頭もの蝶が乱舞していることがある。海上を横切るモンキアゲハの飛翔は一度見ると忘れられない。モンキアゲハは山沿いよりも海岸付近に多い。その理由としては、食草(食樹)が多いこと、年間を通して温暖であることなどが考えられる。しかし、寄生バチによる死亡も毎年少なくない。

海岸付近では、多くの蝶の集合がみられる。オオムラサキやスミナガシなどは、毎日同じ場所へ何頭も集まってくるし、アゲハ類が一ヶ所におびただしい数で飛びまわっている場所もある。ホンバセセリは異常発生かと思われるほどの数になり、一本のオカトラノオに数頭も集まることもある。

オオムラサキの幼虫は平地でみられるし、ヒオドシキョウの幼虫が波のうちよせる断崖絶壁近くのエノキでみられることもあり、興味はつきない。スジボソヤマキキョウ、ツマクロキキョウ、ツマキキョウ、ギフキョウ、ホシミスジ

* 現住所 〒669-67 兵庫県美方郡浜坂町

メスグロヒョウモン、クモガタヒョウモン、ウラキンシジミ、トラフシジミなども海辺近くの林で見ることができ、これらは大変に少ない。浜坂町ではミドリヒョウモンの黒化型が発見されている。鳥取県大山でもみつがっているが、両者間にはかなりの標高差もあり、これは気温よりも遺伝的な要因が強いという理由のひとつになるであろう。

浜坂町ではギフチョウはいなくなったようだが、香住町余部では現在でも生息していると思われる。海岸付近にはえるカンアオイ（スズカカンアオイ）は一ヶ所に集中してはえているため、ギフチョウの生息場所もそこに集中している。したがって、わずかの採集でも絶滅の恐れがある。オオムラサキもエノキの伐採により年々減りつつある。なお、ホソバセセリは依然としてその数は多い。海岸付近は珍種はいないが、いずれも美しい蝶ばかりで、海を見ながらの生態をさぐるのも楽しいものである。

2. 雑 木 林

昔はナラ類の木で炭を作っていたために、雑木林も守られていたが、近年の環境利用の進展でほとんどなくなってしまった。スギやヒノキの植林のため、昔ながらの雑木林は今ではまったくないといってよい。だが但馬にひっそりと残る小さな雑木林には蝶達の生活の営みがある。雑木林で代表的な蝶は、国蝶オオムラサキで、コナラやクヌギの樹液を他の昆虫に混じって吸汁している。スミナガシ、クロヒカゲ、サトキマダラヒカゲなども同様である。

雑木林の中は一般に昼でも暗い。蝶の数は少ないが、暗いところを好む種類もいる。ジャノメチョウの仲間がそうである。ヒメジャノメは足元から急に飛びだしたりし、クロヒカゲは最も暗い場所を好む。しかし、雑木林も春には葉がまだ完全に伸びきらず、ほとんどの木が新芽の状態だ。そのため陽き林の中まで十分にとどき、小さな草花がグングン生長していく。ギフチョウはこの頃現われる蝶で、スミレ類を訪れる本種の姿はまことに奇麗で春にふさわしい。

一般には人の目に触れにくいミドリシジミ類も雑木林に生息している。平地には少なく、山地の雑木林に多い。ジヨウザンミドリシジミ、エゾミドリシジミ、アカシジミ、ウラゴマダラシジミ、ウスイロオナガシジミなど、ほとんどのミドリシジミ類はこういう場所に分布している。発生期が限られているため、時期をまちがえるとみられないが、エゾミドリシジミなどは10月近くになっても新鮮な個体をみることがある。

照葉樹の繁る林よりも、ある程度開けた所のある疎林的な環境の方が、種類数も個体数も多い。

3. 河川流域

但馬の代表的な川は、円山川、岸田川であろう。河川流域には、ヤナギ類が主体となつてはえており、これを食樹としているコムラサキがみられる。上流域には、オナガアゲハ、カラスアゲハ、ミヤマカラスアゲハ、スミナガシ、ミスジキョウなど、アゲハ類やタテハ類が多い。

上流は渓谷を形成している場合が多く、その景観は美しい(渓谷の蝶は別項を参照)。下流は上流に比べ川幅も広く、流れもおだやかである。そのため、円山川下流部では主にヨシガ、岸田川ではススキが繁る。前述のように、川の兩岸にはヤナギ類が多く、蝶の数は少ない。この付近でみられるのは平地性の蝶達で、田んぼや畑にも生息しているヤマトシジミ、ムリシジミ、ヘニシジミ、キキョウ、モンシロキョウなど、日本全国に分布しているものはかりである。

畑では殺虫剤などが散布され、キャベツにもモンシロキョウの幼虫がみられなくなりつつあるが、河川流域では野生の植物を食べているので減ることはない。この点、河川流域は貴重な場所といえる。

4. 畑

畑といえば、モンシロキョウと切っても切れない縁にある。キアゲハの幼虫はニンジンの葉を食べ、成虫は付近の山の頂上へやってくる。(なお、山地性のキアゲハの幼虫はシシウド属のセンキュウの仲間を主な食草としている。)

畑の付近に自生するスイバ、カタバミのある所では、ヘニシジミ、ヤマトシジミが多数みられる。スジグロシロキョウは畑でも発生するが、食草は野生植物で、モンシロキョウのように栽培種を食べることはない。

秋になると、チャバネセセリ、イチモンジセセリ、ウラナミシジミが大発生する場合がある。ウラナミシジミは、扇ノ山麓の畑では屢にでも多数発生している。イチモンジセセリがよく飛来するコスモスには、ときどきアゲハやキアゲハも飛来し、これらの蝶はコスモスとよくマッチする。ツマグロキキョウやスジボリヤマキキョウも秋によく現われる。両種とも畑よりは、むしろその付近の林にみられる。

ウスバシロキョウも畑に発生し、各種の花を訪れる。よく調べてはいないが、発生初期、後期にも黒化型が現われ、黒化型同士の交尾を観察している。但馬では本種はほぼ全域に分布しており、畑以外のところでもよくみられる。これは食草が広範にかつ豊富にあるためと思われる。

水ノ山麓の畑ではミドリシジミ類やタテハ類など面白い蝶相を示している。畑だからといっておろそかにしては、新発見はむしろ多い。

5. 溪谷

但馬でみられる溪谷地帯は、標高300~1000メートルぐらいの間でよく発達している。もちろん、それ以外でもみられるが、規模は小さくなる傾向にある。植物相は豊かであり、中でもトチノキが主体をなしている。その周辺にはミズナラ、イヌブナ、カツラ、ウラジロガシなど落葉広葉樹が生育しており、夏の林の中は薄暗い。

溪谷のところどころにオープンな所があり、そこには各種の花が咲き、蝶の吸蜜場所にもなっている。春にはウスバシロチョウ、スギタニルリシジミ、コッパメ、トラフシジミ、ツマキチョウ、ミヤマセセリなど各種の蝶の活動の舞台となっている。新緑の映える溪谷を飛ぶウスバシロチョウの群れは、雪彦の化身とも思えるほど白くて清潔感にあふれて実に美しい。ウスバシロチョウの求愛行動はシロチョウ科のそれと比較的巧みであり、雄が雌の体の上のにのり、前脚で雌の翅をたたくような動作をする。

スギタニルリシジミも溪谷を主な生息場所としているが、村岡町では人家付近を流れる川沿いに生息しており、必ずしも溪谷でなくとも生息できるようで興味深い。

夏には前述のように広葉樹が濃い繁るため薄暗くなり、蝶の数は少なくなる。ヒカゲチョウの仲間も溪谷には少ない。路傍には清水が湧き出していることが多く、ここには多くのアゲハ類やタテハ類が吸水にやってきて、普段採集困難な種でも、このときには楽に採集できる。こういう場所を二、三知っていると、自分の好きな時間に行って採ればよい。吸水に来るほとんどどの種類の個体も新鮮なものはかりである。

秋になると個体数がめっきり減るが、アザミやタデの仲間、アキノキリンソウなど各種の花が咲き出し、夏に山頂付近によく集まるキアゲハやアサギマダラなどがかなり低い場所まで吸蜜に来る。美方町小代溪谷は規模が大きく、秋でも蝶の数は多い。(車がよく往来するので、採集には向かない。) セセリチョウ類もよく花に集まるが、気温が下がると、まったくみられなくなる。

冬にはもちろん蝶類はみられないが、冬の溪谷は景色の美しさに神秘さえ感じる。

6. 山地草原

鉢伏高原が但馬では代表的な高原だが、その他各地にも点々と山地草原がある。兎和野、美方、上山などの高原は小さいなりに、それぞれ特有の蝶相を示している。

高原を代表する蝶はウスイロヒョウモンモドキである。但馬の高原には本種はにいてい生息しているが、上山高原では幹線林道が扇ノ山方面にまで延びており、本種はもちろんのこと、各種の蝶も減少しつつある。この状況は他の地域でも同じである。ウスイロヒョウモンモドキは、但馬が日本の分布の東限になっているため、生息地を西に追いやらないように保護していかねばならない。

但馬の山地草原は、草原といっても、ミズナラやクリなどが点在しており、むしろ蝶はこういう場所に多く、各ミドリシジミ類、タテハ類がみられる。ヒョウモン類はオカトラノオによく集まり、アザミにはセセリ類が集まる。夏の早朝の高原ではゼフィルスの追飛がみられ、吸蜜にも来る。林道の両脇の花にはアゲハ類、シロチョウ類、シジミ類など各種の蝶が集まり、アカタテハやキタテハなども吸蜜に来る。道路の中央で占有行動をとるルリタテハは馴染みが深い。

ギンイナモンシセセリも草原性の蝶で、地面すれすれをゆるやかに飛び続けるために採集しやすい種類である。しかし、分布が限られており、どの高原にでもいるわけではない。ギブキョウは本来雑木林に生息しているのだが、山地にいくほど高原に姿を現わすようである。

蘇武ヶ岳周辺の高原では、ウスイロヒョウモンモドキはもちろんのこと、周辺に点在するカシワ林にハヤシミドリシジミが生息しているが(谷角・足立、1979)、ここではこの種は低標高に分布しており、主として貴重な場所である。米ノ山周辺の高原には各種の珍しい種類がみられ、これには標高が影響していると思われる。美方高原ではキマダラルリツバメが発見されているが(広畑、1979)、幼虫期に世話になるシリアゲアリの仲間を調べてみたところ、一匹も見つからず、発生源は別にあるのかも知れない。

但馬の高原は、まわりが森林に囲まれていることが多く、そのためによく森林性の蝶が高原に姿をみせることがあり、草原性と森林性の蝶を分けることは非常にむずかしい。

7. ブナ林

早春のブナ林は壮観で実に美しいものであるが、標高800メートル以上の山へ行かねば見ることができない。(浜坂町には500メートルの山にブナの原生林があるが、これは珍しい現象であり、ブナの生いたちを知る上にも貴重な存在であろう。) 春のブナ林には蝶は少ない。

夏にはすっかり葉が伸びきり、林の中は日中でも暗くなる。林内では蝶類が多く、蝶は少ないが、少し開けた所では陽がよく射し込むためか、いろいろな

昆虫が集まり、フジミドリシジミ、アイノミドリシジミ、アカタテハ、ルリタテハ、アサギマダラなどがみられる。花が咲いている場所にはシジミ類やアゲハ類がよく飛来する。

ブナ林の高木層はブナ1種類によって占められることが多く、比較的単純な植物相となっており、落葉低木の栄えているブナ林でも蝶の数は少ない。ところが、近年になって各地でブナの伐採が始まり、立ち枯れの状態のところも増えつつあり、そういう場所ではむしろ高原的な環境となっている。そのため、本来ブナ林には生息しないウラナミシジミやツマグロキチョウが標高1000メートル近いところにまで分布を拡げてきている。ブナ林には蝶は少ないというものの、他の昆虫は種類が多く、中でも甲虫類やクモ類は珍しいものも多く生息しており、伐採はこれらを絶滅に追い込む危険性がある。

但馬地方で有数のブナ林がまだ残っている所は氷ノ山ぐらいである。氷ノ山はかつては兵庫県下でもかなりのブナ原生林がみられたが、現在は山頂付近に限られ、それも鳥取県側の方にだけ残っており、兵庫県側ではもうほとんどみられない。

参考文献

- 高橋匡. 1979. 但馬地方昆虫目録(予報第1報). *Iratsume*, 3: 40-58.
 谷角素彦・足立義弘. 1979. 金山・蘇武山系の蝶類. *Iratsume*, 3: 8-18.
 広畑政己. 1979. 美方高原7月上旬の蝶. *Iratsume*, 3: 38-39.

付. 環境別蝶類分布表

海 灘 河 畑 渠 草 づ				海 灘 河 畑 渠 草 づ			
セセリチョウ科				スズクロチャバネセリ	○		○
ミヤマセセリ	○ ○		○ ○	アリグロチャバネセリ	○		○
ダイミョウセセリ	○ ○ ○ ○			ユキマダラセセリ			○ ○
アオバセセリ	○ ○			ヒメキマダラセセリ			○ ○ ○
キバネセセリ			○	キマダラセセリ			○ ○
ギンモンジセリ			○	オオチャバネセリ	○		○ ○
ホシチャバネセリ			○	チャバネセリ	○	○	
コチャバネセリ			○	ミヤマチャバネセリ	○ ○		○
ホソバセセリ	○	○	○	イチモンジセリ	○	○ ○ ○ ○	○

海 雑 河 畑 溪 草 プ

海 雑 河 畑 溪 草 プ

アゲハチヨウ科									ウラクロシジミ			〇	〇
ギフチヨウ	〇	〇			〇				ミドリシジミ	〇		〇	〇
ウスバシロチヨウ			〇	〇					メスアカミドリシジミ	〇			〇
ジャコウアゲハ			〇		〇				アイノミドリシジミ	〇			〇
アオスジアゲハ	〇		〇						ヒヤマミドリシジミ	〇			
キアゲハ	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇		フジミドリシジミ				〇
アゲハチヨウ	〇		〇	〇					オオミドリシジミ	〇			〇
クロアゲハ	〇	〇	〇		〇				エノミドリシジミ	〇			〇
オナガアゲハ	〇		〇		〇				ハマミドリシジミ				〇
モンキアゲハ	〇	〇	〇		〇				ショウゲンミドリシジミ			〇	〇
カラスアゲハ	〇	〇	〇		〇				トラフシジミ	〇	〇		〇
シヤマカラスアゲハ	〇	〇			〇				コッパメ	〇	〇		〇
									キマダラルリツバメ				〇
シロチヨウ科									ゴイシシジミ	〇		〇	〇
キチヨウ	〇	〇	〇	〇	〇				バニシジミ	〇	〇	〇	〇
ツマクロキチヨウ	〇			〇		〇			クロシジミ	〇		〇	〇
ズボヤマキチヨウ	〇	〇			〇	〇			ウラナミシジミ	〇	〇	〇	〇
モンキチヨウ	〇		〇	〇					ヤマトシジミ	〇	〇	〇	
ツマキチヨウ	〇		〇	〇	〇				ルリシジミ	〇	〇	〇	〇
モンシロチヨウ	〇		〇	〇					スギタニルリシジミ		〇	〇	
ズンクロシロチヨウ	〇	〇		〇	〇				ツバメシジミ	〇	〇	〇	〇
エノズクシロチヨウ	〇	〇											
シジミチヨウ科									ウラギンシジミ科				
ムラサキシジミ	〇	〇			〇	〇			ウラギンシジミ	〇	〇	〇	〇
ウラゴマダラシジミ	〇								テングチヨウ科				
ウラギンシジミ	〇	〇			〇				テングチヨウ	〇		〇	
アカシジミ	〇	〇			〇								
ウラナミアカシジミ	〇								マダラチヨウ科				
オナガシジミ				〇					アサギマダラ	〇		〇	〇
スズメオナガシジミ					〇								
ウスズメオナガシジミ					〇				タテハチヨウ科				
ウラミスジシジミ					〇				ウスズメオナガシジミ				〇

	海 雑 河 畑 溪 草 プ					海 雑 河 畑 溪 草 プ				
ウギスジヒョウモン	○			○ ○		アカタテハ	○ ○	○	○ ○	
オウギスジヒョウモン	○		○ ○ ○			スミナガシ	○ ○		○	
ミドリヒョウモン	○	○	○ ○			ユムラサキ	○ ○	○ ○ ○		
クモグサヒョウモン	○		○			ゴマダラチョウ	○ ○			
メスグロヒョウモン	○		○	○		オオムラサキ	○ ○			
ウラギンヒョウモン	○			○						
オウラギンヒョウモン	○			○ ○		ジャノチョウ科				
ツマグロヒョウモン				○		ヒメウラナジャノ	○ ○ ○		○	
イチモンジチョウ	○ ○			○		ウラナシジャノ	○ ○		○	
アサマイチョウ		○		○		ジャノチョウ	○	○ ○		○
ユミスジ	○ ○ ○			○ ○		ヒメキマダラヒカゲ		○		○ ○ ○
ミスジチョウ		○		○		ヒカゲチョウ	○ ○			○ ○
ホシミスジ	○					クロセカゲ	○ ○			○ ○ ○
サカハチチョウ	○			○ ○		サトキマダラヒカゲ	○ ○			○ ○
キタテハ	○	○ ○ ○ ○				ヤマキマダラヒカゲ		○		○ ○ ○
ルリタテハ	○	○ ○ ○ ○				ヒメジャノ	○ ○ ○			○ ○
ヒオドリチョウ	○			○ ○		コジャノ	○			○ ○
ヒメアカタテハ	○		○							

(項目のうち、海=海岸、雑=雑木林、河=河川流域、畑=畑、溪=溪谷、草=山地草原、プ=ブナ林、とそれぞれ示す。)